

施設紹介

小児科での導入事例

使用機器：自動血球計数CRP測定装置
Microsemi LC-667 CRP
測定項目：CBC、CRP

くさかり小児科
院長 草刈章先生



エビデンスに基づいた 安心・安全な医療の提供

Q1：モットーを教えてください。

A1：保護者には発熱や咳などは、かぜをひいたときのヒトの病原体に対する正常な防御反応であるとの理解がありません。また、子どもの高い熱は肺炎や髄膜炎ではないかとの不安が強く、夜間救急外来を受診するなど過剰な医療を求める傾向があります。このような患者・保護者に対して、進化医学の観点から症状を説明し、診断と治療の根拠を分かり易く説明する安全で安心な医療を提供することが、小児科医として重要な役目と考えています。

Q2：1日に何人くらい診察されますか？

A2：季節により変動はありますが、1日あたり60-70人くらいです。2月初旬はインフルエンザが流行しているので、1日に100人を超えることがあります。

Q3：どのようなときに、血液検査をしますか？

A3：発熱が5日以上継続、39°C以上の高熱、発熱の原因が不明、痛みを伴う、親御さんの不安が大きい場合などでCBCとCRPを測定しています。血液検査の実施の割合は、発熱で受診した患者さんの10%です。

Q4：診療時に、どのようなことに注意されていますか？

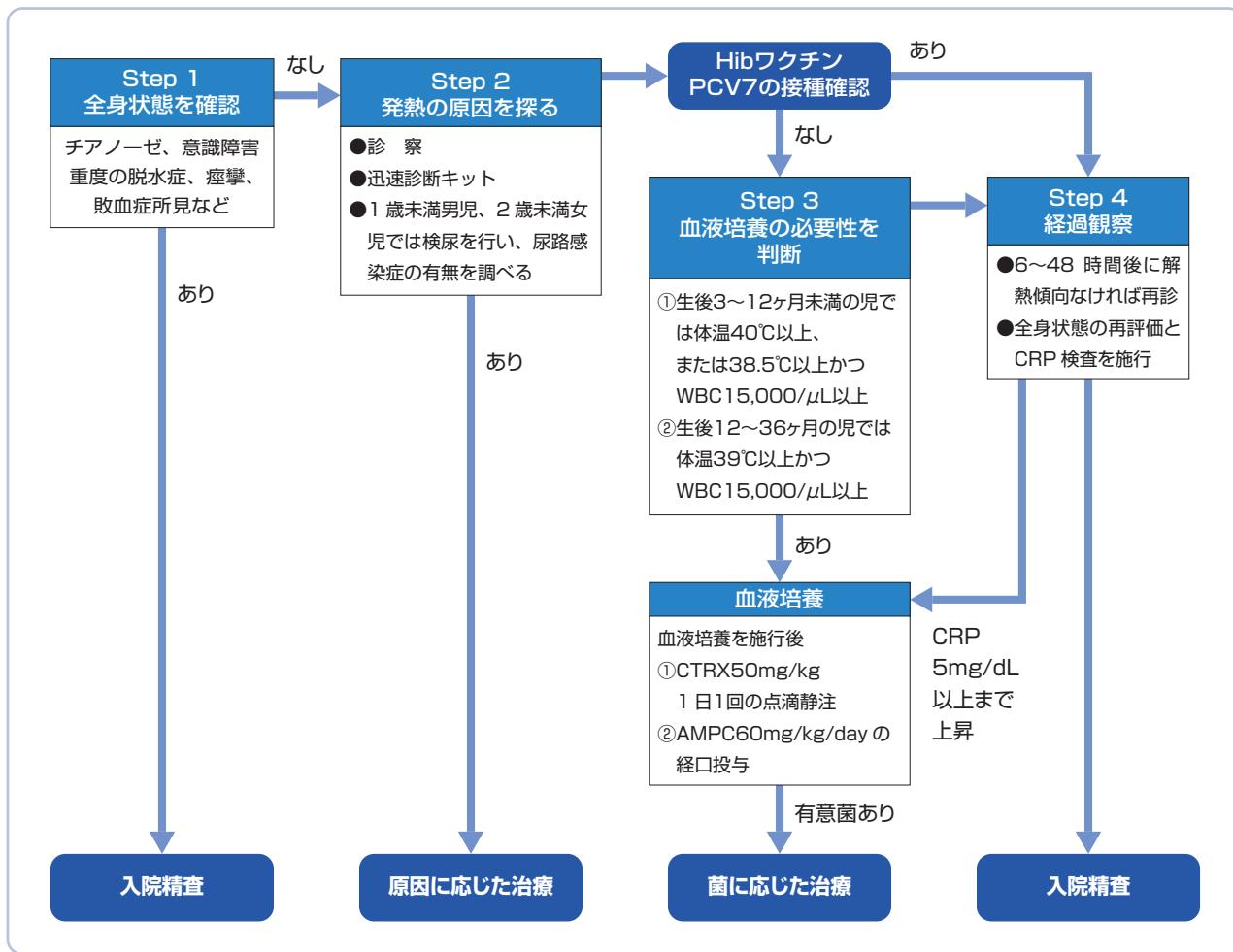
A4：小児科を受診する高熱の患児の大部分はウイルス感染ですが、稀に肺炎、菌血症、髄膜炎などの重症細菌感染症の場合があるので、このような患者さんを見逃さないように院内で検査しています。重症が疑われる場合には静脈採血して、CBCとCRPだけでなく生化学検査(TP、ALB、TB、AST、ALT、LDH、UN、クレアチニン、IP、Ca、Na、K、CL)を実施しています。

Q5：不明熱の患者さんはどのように対応されていますか？

A5：不明熱診療のチャートにしたがってワクチンを接種していない3歳未満の乳幼児の場合には、指先から微量検体を採血して、CBCとCRPを同時に評価しています。白血球数(特に顆粒球数)とCRPが高く、細菌感染が疑われる場合には、抗菌薬を点滴静注します。

くさかり小児科
院長 草刈章先生

不明熱診療のチャート



くさかり小児科



草刈章先生



自動血球計数 CRP 測定装置
Microsemi LC-667CRP
製造販売届出番号: 26B3X00002230004
Microsemi LC-667CRP は全血、検体吸引量 18 μL、約 4 分で CBC と CRP を同時に測定できます。

株式会社 堀場製作所 医用営業統括室 TEL(075)313-5736(直) FAX(075)313-8177 E-mail:me_info@horiba.co.jp

●東北[仙台](022)308-7890(代) ●東京(03)6206-4719(直) ●名古屋(052)936-5781(代) ●大阪(06)6390-8013(直) ●四国(087)867-4800(代) ●広島(082)288-4433(代) ●九州(092)472-5041(代)